

自死(自殺)という

”いのち“の問題に向き合う

自死問題専門委員会 藤澤 克己

年間自殺者三万人以上

十年連続で年間自殺者が三万人以上という異常事態が続いており、最近の社会情勢の悪化から追い詰められ自死(自殺)してしまう人の数が増えつづけています。

それでも自死は「自分と関係ない」と思っている人が多いのではないのでしょうか。しかし、去年一年間に自死で亡くなった三万人もの方々は、例えばその三年前に自分が自死するとは想像すらしていなかったと思えるのです。

三つの無くしたいもの

自分とは関係ないと思わせてしまふもの、自死問題に関して「無くしたいもの」が三つあります。

まず「誤解」です。自死する人は、自分の意志で選択して死んでいったと思われがちですが、決してそうではありません。実は、死にたくて自死する人はいないのです。「死にたい」と言葉にしますが、本当は「辛

くて、生きていくことができない」という意味なのです。「誤解」を無くすためには「如実知見」、すなわち実態をつぶさに見て正しく知ることが望まれます。

次に無くしたいものは「偏見」です。自死する人はいのちを粗末にしているとか弱くて逃げているといったモノの見方は、まったく間違っていると言わざるをえません。いのちを大切にすべきことは重々分かっているし、本当は生きていきたいのに、生きていくための道が見つからず、死ぬしかないと思いつめて、亡くなってしまうのです。「偏見」を無くすことで、辛くて生きていくことができないうや、思い悩んでいる人が、ようやく誰かに悩みを打ち明けられるし、ご遺族の方々がやっと安心して悲しめるようになると思えます。心置きなく感情を表せる「場」を提供すること、また安心して悩むことのできる社会を築いていくこと

誤解・偏見・はぐらかし

が望まれていると思えます。

無くしたいものの三つめは「逸らかし(はぐらかし)」です。自死したいと思いつ

んでいる人から打ち明けられたとき、変なことを言つて自死を助長したくない話題を変えてしまうことが実際に起きているようです。また、大切な人を自死で亡くした方に何と声を掛けていいのか分からず、やはり遠巻きにしてしまうことがあるようです。しかし、それではますますその人を孤立させてしまいかねません。では、どうすればいいのかというと、しばらくは傍に居て、その気持ちに寄り添うようにすればいいのです。はぐらかさず、しっかりと気持ちを受け止めることが望まれます。

生きるためにどうするか

「いのち」の問題にはあらかじめ答えが用意されてはいません。自死という「いのち」の問題に向き合うことは、生きるためにどうするかを私自身の課題として問い続けることだと思えます。自死問題専門委員会として、この問題にしっかりと向き合うことができるような機縁を提供し、これからも一緒に考えていきたいと思えます。